

女子大学生の家族観

—本学人間生活学科女子学生の場合—

沼田 美由紀*

1. はじめに

1998年告示された新学習指導要領以降、家庭科ではどの学校段階においても「家族」に関する学習を重要視するようになってきている。小学校では、家族の一員として家庭生活を大切にする心情を育むこと、中学校では、自分の成長と家族のかかわりに関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考える。高等学校では、家族・家庭の意義とともに、家族・家庭が社会との関わりの中で機能していることを理解し、家族が互いに協力して生活を創造していくとすの意欲へつなげることが目標とされている¹⁾。とくに今回(2010年)の学習指導要領改訂にあたっては、少子高齢化や家族の機能が十分に果たされていないといった社会状況に対応して、家族と家庭に関する教育をさらに重視する方針が出された。

学校教育において「家族」に関する様々な内容を総合的に学習するのは家庭科である。では、小、中、高等学校を通じて家庭科を履修してきた大学生はどのような家族観をもっているのだろうか。大学生の家族観に関してはいくつかの先行研究がある。綿引・横道(1997)は自分の育った家庭環境や家族関係が大学生の家族観にどのように影響を与えているのかを検討することにより、家族に関する教育への示唆を得ることを目的とした²⁾。鈴木(2003)は小学校で家庭科を担当する可能性のある大学生が、自らの家族・家族観と向き合う機会になるように試みた授業の経過と題材について報告している³⁾。藤田(1987)は女子大学生に対して「私の家庭と10年後の私」という題で作文を書かせ、それをもとに家庭観や結婚観などについてまとめている⁴⁾。岡田・入江(2006)は大学生を対象にその家族観についてアンケート調査を実施し、男女共通に家庭科で身に付けたい力として家族関係を重視し、そのための教材開発・授業改善の必要性を指摘している⁵⁾。

これらの先行研究では、家族機能や家庭生活の意義といった学習が家庭科では不足していることを指摘し、家族関係の学習を積極的にすべきとの提案をしてはいるものの、なぜそれらの学習がなされていないのかの分析までは至っていない。この点に関して、筆者は家庭科において家族の社会的機能についての学習が不十分、またはなされていない状況を反映しているとの仮説をたてた。本稿は、本学人間生活学科の女子学生が「家族と社会」の授業を受講するにあたり、前もってどのような家族観をもっているのかを調査したので、その結果について報告する。

2. 調査目的と方法

【調査1】:「家族ってなんだろう」

本学人間生活学科3年生を対象にした授業「家族と社会」(前期15回)の最初のガイダンスの際に、学生の家族観がどのようなかを把握しておくために、「家族ってなんだろう」というタイトルで自由記述してもらった。実施日は2016年4月13日、回収数は50人。

* 藤女子大学大学院人間生活学研究科(院生)

【調査2】：「ペットは家族ですか」

同年4月20日（回収数48人）に同じ対象者に2回目のアンケート調査をした。今回は家族機能についての講義に先立って「あなたはペットは家族と思うか」という問いを投げかけた。結果は約半数がペットは家族であると捉えていた。その後、教師は家族の範囲、すなわち主観的な家族像の捉え方があることについて講義した。さらに「私にとっての家族は誰ですか」と問いかけられた場合、先行研究では、女性の過半数がペットは家族であると認識していたとの調査結果を紹介した⁶⁾。

一方、同じ講義内で森岡正博氏の「ペットを飼う一後ろめたさ誰でも一」の新聞記事を紹介した⁷⁾。彼は、ペットと人間は対等ではない、人間はペットの自由を強制的に奪っており、主従関係がはっきりしている。お金を出したものを自分の家族と呼んでいいのか、ペットは決して人間の家族ではないし、友達でもないと述べている。

続いて家族の機能について授業を進めるなかで、ペットという時は安らぎを得ることができるのは確かだが、家族は安らぎの機能だけを果たす集団ではない。やすらぎの機能は家族の機能としてはむしろ派生的であり、より重要な家族としての固有機能をペットは担うことはできない。したがって、いくら安らぎが大切であると言っても、ペットは家族とは言えないのではないかという疑問を学生達になげかけた。

3. 結果と考察

1) 【調査1】：「家族ってなんだろう」の結果について

「家族ってなんだろう」の問いかけに対し、学生の記述内容をKJ法を用いて以下の4つに分類した。〈1〉は、家族の集団としての特殊性に注目した記述。〈2〉は、家族の精神的・情緒的機能に注目した記述。〈3〉は、家族の血縁や親族関係に注目した記述。〈4〉はその他の記述である。複数回答により総回答数は85であった。

〈1〉家族の集団としての特殊性に注目した記述数38のうち、主な内容は「生まれてから一番最初に属する集団」（回答数13）、「生きていくために必要な社会集団」（回答数19）、「子どもが成長する過程でなくてはならない小集団」（回答数6）であった。このことから、家族という集団は子どもにとって非常に身近な集団であり、成長する上で学校はもちろん必要だが、学校では学べないことを経験することができるため、家族はなくてはならない集団であると捉えていることがわかった。

〈2〉家族の精神的・情緒的機能に注目した記述数34のうち、主な内容は「いつでも味方でいてくれる存在」（回答数17）、「自分が自分でいられる場所」（回答数9）、「支え合う・支えてくれる存在」（回答数8）であった。このことから、家族という存在はいつも自分の味方になってくれ、心強い存在であると捉えていることがわかった。大学生になると家族から離れて暮らす学生も多くなる。このことから家族に対しては一緒に暮らしている時はもちろんのこと、離れてみてその大切さやありがたみを感じることもある。また、家族に対してはあまり気を使うことなく、リラックスできる場であることを求めている。

〈3〉家族の血縁や親族関係に注目した記述数10のうちには、「血のつながりはあまり関係ない」（回答数8）に対して、「血のつながりは大切である」（回答数2）がみられた。このことから、家族というものは血のつながりはなくても、信頼関係があったり、一緒にいたいと思う心が大切であると捉えている学生が多いこともわかった。近年家族の形は様々なものがあり、再婚した夫婦の家族、里親など血のつながらない者同士が暮らすこともある。

このことから血のつながりだけではなく、自分の持つ家族意識や、家族といることに心地よさを感じられるかということが非常に大事な要素であると推測された。

〈4〉その他として、家族に対するマイナスイメージを記述したのは3回答あった。すなわち、「一番維持しにくい人間関係」、「トラブルがあった場合、他の集団より一番傷つき、複雑になってしまう集団」、「ほどよい距離をとる必要がある」であった。これらの記述からは、家族は身近な人達だからこそ人間関係が難しくなることや、家族だから何をしても良いというわけではなく、それぞれが適切な距離をとりながら接することが大事だと捉えている学生がいることもわかった。

2) 【調査2】:「ペットは家族ですか?」の結果について

回答数 48 人 (複数回答含む) のうち「ペットは家族ではない」と回答したのは 35 人であった。「家族ではない」とする理由は以下の A~E の 5 つに分類された。また、「ペットは家族である」と回答したのは 13 人、「家族である」とした理由は以下の F~H の 3 つに分類された。

○ペットは家族ではない理由

A: 人間に束縛, 拘束されている立場だから (回答数 4)

- ・人間のように動きまわれるものとは異なり、ゲージに入れられていることを考えると、家族とは言えない。
- ・家族にとっても近い存在。ペットは人間の生活に合わせて生活させられているので、対等とは言えない。なのでペットは家族とは言えない。
- ・家族間の相互関係はなく、ペットは人間によって生かされていると考えられる。
- ・飼っている人間にそのペットの生活は握られている。

これらのことから、ペットは自分自身の意思で行動できず、人間に生活を決められてしまうことが多いため、やはり家族とは言えないと捉えていることがわかった。

B: お金を出して買ったものだから (回答数 4)

- ・お店で買った動物は決して家族とは言えない。
- ・ペットと人間は対等ではない、お金を出して買って飼っているというのは、家族ということにはならない。
- ・家族はお金で買えるものではない。
- ・買うことができるということは、家族だといふ難いところもある。気持ち的には家族と同じ位大切に思うが、人間と対等でない限り家族というのは難しい。

これらのことから、ペットはお金を出して飼うことが多く、お金が発生するものにはやはり家族とは言えないと捉えていることがわかった。

C：人間との主従関係がある（回答数9）

- ・対等な関係性はなく、主従関係がはっきりとあるため、家族とみなしてはいけない。
- ・ペットは人間と対等とは言えないためである。ペットは主観的にみると家族と思ってしまうが、客観的にみるとやはり家族と断言できないのである。
- ・ペットは安らぎを与えてくれるが、社会的な機能は無いということと、人間と対等ではなく、人間とペットで主従関係ができてしまう。
- ・主従関係から家族関係をつくりだすことは困難だ。
- ・ペットと人間は同等ではなく、どうしても人間の方が上に立ち従わせている。
- ・ペットと飼い主の間には夫婦関係や親子関係はない。あるのは主従関係である。
- ・ペットと人間というのは対等な立場ではない。
- ・人間にとってペットは癒しを与えてくれ、いつも一緒にいてくれるが、それは人間とペットの間で主従関係がはっきりとあるからである。
- ・今までペットは家族という認識は当然だと思っていたが、今回の記事を読み、対等ではないことに気付かされた。

これらのことから、ペットと人間ではどうしても人間の方が優位に立ち、主従関係が発生することがあり、対等ではなくなってしまうため、ペットは家族とは言えないと捉えていることがわかった。

D：家族に近い存在だが、家族とは言えない（回答数7）

- ・ペットは家族ではないけれど、家族のような存在で家族のように接し、大事にするべき存在である。
- ・一緒に生活をしていく生き物ではあるが、家族というものに分類することは難しい。しかし、ペットはとても家族に近い存在。
- ・ペットは家族だとは言えないと思うが、家族のような存在であると言える。
- ・安らぎを得ることができても、対等な関係ではないのなら、家族と呼ぶことは難しい。お互いコミュニケーションを取ることは不可能。
- ・ペットは家族のような存在ではあるが、家族ではないと思う。
- ・特定の身分関係にあるわけでもないし、ペットは社会的には役割を果たさないので、家族ではないだろうと思う。
- ・形式的には家族ではないけど、最も家族に近く、家族のようなものである。

これらのことから、ペットは家族とは言えないが、家族に限りなく近い存在で安らぎを得ることもあると捉えていることがわかった。

E：その他（回答数13）

- ・家族というのは、原則的に加入・離脱が不可であるということなので、ペットは加入や離脱は簡単であるから、家族とは言えないと思う。
- ・紹介された資料や、家族は癒しを与えられるだけの集団ではないと言われ、納得した。

- ・ペットは人間を癒すための「モノ」でしかないのかもしれないと考え直した。もしペットが家族というのなら、私にとってパソコンやスマホも家族に含まれる。
- ・犬には犬の親や子がいて、それが家族であって、人間の家族ではない。
- ・社会的機能を果たしていなければならないので、ペットは家族ではないと思う。
- ・人間と同じように扱おうとはせず、ペットはペットなりの生き方や寿命があるから。
- ・ペットとは精神的なつながりがないことや、家族のように辛いことがあった時にお互いに助けあうことができない。
- ・ペットが家族かどうかは個人個人で異なり、断言できるものではない。
- ・ペットから安らぎを得るが、家族であるとは言えない。
- ・気持ちは家族だと思っているが、ペットはペットでしかない。
- ・癒しの問題だけでは家族とはいえない。
- ・家族の機能は愛情（安らぎ）以外にもあるので、私個人としてはペットは家族ではないと思った。
- ・血はもちろんつながっていないし、法律上契約しないでペットにできる動物もいる。したがってペットは家族ではない。

次にペットは家族であるとした理由は以下の F~H の 3 つに分類された。

○ペットは家族である理由

F：癒しを与えてくれる（回答数3）

- ・ペットがいることで家庭が円滑になり、上手くいくようになるのであれば、家族と考えるのもよいと思う。
- ・主従関係が成り立ち、「家族」とはみなしづらいが、ペットも私たちに癒しを与えてくれていると考えれば、他の人間の家族とも何ら変わりはないのではないだろうか。それは、主観的にとらえた家族の範囲とも捉えられる。
- ・ペットに癒され、心が豊かになる。

これらのことから、ペットも人間の家族と同じように癒しを与えてくれるので、家族とみなしてよいと捉えていることがわかった。

G：共に生活（回答数4）

- ・人間と動物だって愛情や時間が積み重なれば家族であると思う。
- ・一緒に暮らしているし、動物を飼うときは死ぬまで面倒を見るという覚悟を決めているので、ペットは家族だと思う。
- ・毎日一緒に生活をし、年を重ねていくものなので、家族員のうちの一人として考えてもよいと思った。
- ・一緒に集団として生活し、持続的な関係が長期間続いていること、ペットに対しても人間に対しても同じような愛情をもって接しているから。

これらのことから、一緒に生活し、同じ時間を過ごしているのだから、家族とみなしてよいのではないかと捉えていることがわかった。

H：その他（回答数6）

- ・例えお金を出して手に入れた存在であったとしても、それは関係なく家族だと思ってよいのではないか。
- ・ペットが人間と対等ではなくても家族ではないと言い切れない。
- ・主観的な FI で考えた時には、ペットも家族の範囲として捉えても良いのではないか。
- ・ペットと人間は血縁的關係がなくても、持続的な関係が続き、親、子と同じような感情を持つ存在になる。
- ・主観的にみると家族の範囲は自分で決められるので、そう考えるとペットは家族に入る。
- ・自分自身が家族だと思っていれば、ペットも家族というものになるのではないか。

4. まとめ

「家族と社会」の授業を展開するにあたって女子大学生の家族観を捉えた。その結果から次の点が指摘できる。

一つは彼女らの家族観は、大方肯定的な内容であった。その中身は、集団としての特性に注目した記述としては、「生まれてから一番最初に属する集団」、「生きていくために必要不可欠な集団」などであった。家族の情緒的繋がりに注目した記述としては、「自分が自分でいられる」、「いつでも自分でいられる」などであった。家族の血縁や親族関係に注目した記述としては、「血の繋がりがあがる、なしに関わらず、信頼関係があるかどうかや一緒にいたいと思う心があるかどうか」などが挙げられた。逆にマイナスイメージ3回答からは彼女らが現実に直面している家族関係上のトラブルをもとにして、「一番傷つく」などが挙げられていた。

二つには、「ペットは家族ですか」の問いに対する彼女らの意識としては、大方家族ではないと捉えていた。しかし、家族ではないと回答していても「家族のような存在」と捉えている学生も多く、そのことから家族に限りなく近い存在であると考えていることがわかる。ペットは家族であると回答した学生は、ペットと共に生活し、癒しを与えてくれる存在であり、家族となんら変わりはないという考えであり、人間の家族と同じくらい身近で、なくてはならない存在であると捉えていることがわかった。

三つには、2つの調査を通して女子大学生の家族の捉え方には、安心感や安らぎを得ることができるなどの情緒的集団としての意識が非常に強いということがわかった。ペットに対してもちろん情緒的感情を強くもっている学生も約3割弱みられた。

今回得られた結果から、女子大学生は家族を精神的・情緒的機能を持つ集団として意識していることが明らかになったが、今後の小・中・高の家族機能の学習では、更に社会的機能について指導すべきことを提案する。